

PRESS RELEASE

入場無料

令和4年度 福岡市文学館企画展

まなざしと記憶—宇野浩二の文学風景

3年ぶりの開催となる福岡市文学館企画展は、福岡市南湊町（現・中央区荒戸）生まれで、大正期を生きた作家・宇野浩二を紹介します。福岡市総合図書館収蔵の「宇野浩二文庫」の中から新たに発見された、彼自身が撮影した大量の写真群とテキストの関係性を紐解きます。百年の時を越えて、作家・宇野浩二のまなざしと記憶が鮮やかに甦ります。また、会期中は関連イベントも開催しますので、広くお知らせいただきますようお願いいたします。

- 1 会期 令和5年1月13日(金)～令和5年2月26日(日)
- 2 会場 福岡市総合図書館1階ギャラリー
(福岡市早良区百道浜 3-7-1)
- 3 入場料 無料



宇野浩二

福岡市文学館とは・・・

福岡市総合図書館が実施する事業で、福岡ゆかりの文学に関する資料を収集し、市民向けの文学講座や1階ギャラリーにおいて、常設展示や企画展示を行っています。

	イベント名	会期(開催日時)	内容	会場	定員
企画展	福岡市文学館企画展 「まなざしと記憶—宇野浩二の文学風景」	1月13日(金) ～ 2月26日(日)	大正時代を代表する作家の一人である宇野浩二について、図書館収蔵の「宇野浩二文庫」の初公開資料を中心に、作家の新たな魅力に迫ります。	総合図書館1階 ギャラリー	—
関連イベント	写真展 西海旅日記	1月13日(金) ～ 1月29日(日)	大正10年の夏、若き文士たちの旅の記憶を宇野浩二が撮影した写真で辿ります。	総合図書館1階 ショーケース	—

関連イベント	関連講座①「宇野浩二の「語り」の可能性」	1月21日(土) 14:00~15:30 (13:30 開場)	講師: ^{やまぎしいくこ} 山岸 郁子 氏 (日本大学教授)が作家の写真とテキスト「語り」の関係性について話します。	総合図書館3階 第1会議室	40名 要申込 (1月9日 必着) 抽選
	関連講座②「宇野浩二と大阪—人物・追憶・風景—」	2月19日(日) 14:00~15:30 (13:30 開場)	講師: ^{ますだちかこ} 増田 周子 氏 (関西大学教授)が作家が青年期までを過ごし文学的土壌となった大阪との繋がりについて話します。	総合図書館3階 第1会議室	40名 要申込 (2月10日 必着) 抽選
	ギャラリートーク	1月15日(日) 2月19日(日) 16:00~16:30	学芸員が見どころを解説します。	総合図書館1階 ギャラリー	各10名 申込不要

4 企画展図録 A5判・48ページ 1,000円(税込)

5 関連講座の申し込み方法

応募事項[(1)氏名 (2)郵便番号 (3)住所 (4)電話番号]を漏れなく記載し、ハガキ、FAX、メール、来館(総合図書館3階事務室)のいずれかの方法でお申し込みください。締切は、関連講座①が1月9日(月)、②が2月10日(金)必着。定員を超えた場合は抽選となり、当選者(受講決定者)のみ通知します。

6 宇野浩二プロフィール

宇野浩二(うの・こうじ) 明治 24.7.26-昭和 36.9.21

作家。福岡市南湊町(現・中央区荒戸)生まれ。本名・格次郎。2歳の時、父親の急死により一家で関西に移住。多感な少年時代を大阪の花街・宗右衛門町で過ごす。早稲田大学英文科中退。「蔵の中」で文壇デビューし、「苦の世界」「山恋ひ」で人気作家となる。一時は精神を病み再起を疑われたが、『枯れ木のある風景』で文壇に復帰。その作品から「文学の鬼」と称された。主な著作に『子を貸し屋』『文学の三十年』『思ひ川』『芥川龍之介』『世にも不思議な物語』などがある。享年70。

7 宇野浩二文庫

平成8年6月、福岡市総合図書館の開館時にご遺族から寄贈を受けた宇野浩二とその子息・守道氏の蔵書、資料および日本近代文学館より寄贈された図書からなる約2000点の文庫で、郷土・特別資料室(地域資料群)の特別コレクション。宇野浩二の著作や研究書、旧蔵書が約100点、原稿や書簡、写真などの一次資料約1000点から構成。



福岡市教育委員会
Fukuoka City Board of Education

福岡スタンダード~福岡の子どもたちに大切にしてほしいこと~

生活習慣の柱 あいさつ・掃除	学びの柱 自学・とも学	未来への柱 チャレンジ・立志
-------------------	----------------	-------------------

〈問い合わせ先〉

総合図書館文学・映像課

担当: 高巢(たかす)、本田(ほんだ)

電話 092-852-0606(直通)

FAX 092-852-0609

✉ bungakukan@city.fukuoka.lg.jp

記憶 まなぶ

宇野浩二の文学風景

令和4年度 福岡市文学館企画展

2023

1.13 fri » 2.26 sun

福岡市総合図書館 1階ギャラリー

○観覧時間／10時～19時(日曜・祝日は18時まで)

○休館日／月曜日、1月31日 ○観覧料／無料

主催／福岡市文学館(福岡市文学振興事業実行委員会・福岡市教育委員会)

後援／(公財)福岡市文化芸術振興財団

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、内容の一部が変更になる場合があります。

福岡市総合図書館
福岡市文学館
Fukuoka Literature Museum





大洋丸船上にて、左から里見弴、直木三十五、加能作次郎(撮影:宇野浩二)



玉川遊行にて、左から里見弴親子と加能作次郎(撮影:宇野浩二)

まなざしと記憶 宇野浩二の文学風景

「文学の鬼」と呼ばれた作家・宇野浩二が、大正時代、まだ稀少だったカメラを持ち歩き、大量の写真を残していたことをご存知でしょうか。当館「宇野浩二文庫」には、アルバムに収録された写真も入れると一千枚を超える写真群が存在します。この度、コレクションの再調査を行い、その中大正期に宇野自身が撮影した写真が大量に含まれていることを確認しました。

宇野は、その文学的回想録『文学の三十年』や評伝『芥川龍之介』の中で自身の撮影した写真を何度も紹介していますが、没後、これまでこうした写真群が紹介される機会はありませんでした。

宇野浩二にとって、またその文学にとって、この膨大な写真群は、どのような意味を持つものだったのでしょうか。

本展は、「まなざしと記憶—宇野浩二の文学風景」と題し、作家の写真とテキストの関係性を初めてご紹介する展覧会です。彼の文学の風景を辿り、彼の人生に重要な意味をもたらした〈場〉と友情、そして旅—膨大な写真群を、作家が後半生に於いて何度も語り直したテキストを手がかりに紐解いていきます。

百年の時を越えて、作家のまなざしと記憶が鮮やかに甦ります。

どうぞ、ご高覧ください。



諏訪湖にて、直木三十五(撮影:宇野浩二)



芥川龍之介から贈られたゴゴリ半身像(個人蔵)

企画展関連イベント

「写真展 西海旅日記」

- 会場:総合図書館1階ショーケース
- 会期:1月13日(金)~29日(日)
- 観覧料 無料

ギャラリートーク(学芸員による見どころ解説)

- 日時:1月15日(日)、2月19日(日)16:00~16:30
- 会場:総合図書館1階ギャラリー
- 定員:10名程度(先着順)

企画展関連講座① 要申込

「宇野浩二の「語り」の可能性」

講師:山岸郁子氏(日本大学教授)

- 日程:1月21日(土)14:00~15:30(開場:13:30)
- 締切:1月9日(月・祝)
- 会場:福岡市総合図書館第1会議室
- 定員:40名(要事前申込・定員を超えた場合抽選)

企画展関連講座② 要申込

「宇野浩二と大阪—人物・追憶・風景—」

講師:増田周子氏(関西大学教授)

- 日程:2月19日(日)14:00~15:30(開場:13:30)
- 締切:2月10日(金)
- 会場:福岡市総合図書館第1会議室
- 定員:40名(要事前申込・定員を超えた場合抽選)

【申込方法】

応募事項 (1)氏名 (2)郵便番号 (3)住所 (4)電話番号をのりなく記入の上、Email、葉書、FAXのいずれかの方法で下記宛先までお申し込みください。定員を超えた場合は抽選を行い、当選者(受審決定者)のみご連絡します。

【申込・お問合せ先】

〒814-0001
福岡市早良区百道浜3丁目7-1
福岡市総合図書館 文学・映像課福岡市文学館担当
TEL 092-852-0606 FAX 092-852-0609
Email bungakukan@city.fukuoka.lg.jp


宇野浩二 | うのこうじ | 1891.7.26-1961.9.21

作家。福岡市南湊町(現・中央区荒戸)生まれ。本名・格次郎。2歳の時、父親の急死により一家で関西に移住。早稲田大学英文科中退。「蔵の中」で文壇デビューし、「山恋ひ」「苦の世界」で人気作家となる。一時は精神を病み再起を疑われたが、『枯木のある風景』で復帰。その作品から「文学の鬼」と称された。享年70。



地下鉄/「西新駅」下車徒歩20分
西鉄バス/「福岡タワー南口」「博物館北口」「博物館南口」
下車徒歩5分

- お問い合わせ先
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 文学・映像課福岡市文学館担当
TEL:092-852-0606 FAX:092-852-0609

新発見の写真から 

大正文士たちの若き日の知られざる素顔

宇野が撮影した写真の中には文学史上の人々が記録されています。その多くは、彼らがまだ文壇で名を成す前の若き日の姿です。よく知られた肖像写真とは異なる、知られざる文士たちの青春の日の素顔をご覧ください。 **【初公開資料】**



鶴沼海岸・文士宿・東屋にて、小林せい子 大正10年頃
谷崎潤一郎『痴人の愛』のヒロイン・ナオミのモデルとなった、谷崎夫人・千代の妹。芥川や里見など大正文士たちの周辺に居て、小悪魔的な存在だったという。



諏訪湖にて、直木三十五 大正11年1月初旬
「直木賞」の名前の由来となった大正を代表する大衆小説作家。時代の寵児となった華々しい活躍以前の姿を宇野は記録している。

百年前の幻の旅

大正10年夏、宇野は、友人の久米正雄、直木三十五、加能作次郎、里見弴、佐佐木茂索、片岡鉄兵らと14日間の北部九州への講演旅行に出ています。この旅で宇野が撮影したフィルムはなんと200枚近くにもものぼります。そこにはのちに大正時代を代表する文士となる一行の若き日の旅姿だけでなく、客船・大洋丸の船内の風景や北部九州の百年前の貴重な風景が記録されています。 **【初公開資料】**



客船・大洋丸の船内 くつろぐ乗客たち 大正10年7月



那珂川岸の風景 大正10年8月

一行が福岡で宿泊したのは那珂川沿いにあった「水野旅館」。水辺の失われた風景を宇野は写真に残している。絵葉書の題材にもよくなっているエリアだが、貴重なところでは、旅館の並びにあった永野時計店の姿が写っている。永野時計店は、筑前における時計屋の祖・水野円助の家。(参考:『博多風土記』)



二代目博多駅 大正10年8月

広報用画像について

チラシおよびプレスリリース掲載の写真は、広報用画像をご用意しております。申請が必要になりますので、文学・映像課 福岡市文学館担当までお問合せください。